

様式 1

完了報告書（平成 25 年度）

提出者 藤川直也

提出年月日 平成 26 年 3 月 31 日

**【プロジェクト名】**

和文

20 世紀初頭におけるヨーロッパ哲学とアジア哲学の影響関係について：インドと日本を事例に

英文

On mutual influence between European philosophy and Asian philosophy in the early 20<sup>th</sup> century:

**【メンバー構成】**

研究代表者 藤川直也

幹事

メンバー 飯塚一

**【研究のねらいと目的】**（600 字程度）

20 世紀初頭は、ヨーロッパの哲学とアジアの哲学の間での本格的な交流が始まった最初の時代である。本研究では、20 世紀初頭のヨーロッパ哲学とアジアの哲学の影響関係を、インドと日本と事例に考察した。インドに関しては、Bhattacharyya (1875-1949) と 18 世紀ドイツの哲学者カントの関係を研究した。Bhattacharyya はカント哲学の強い影響のもと、「主体」を哲学の基礎に据えているが、その一方で、幾つかの批判も加えている。特にカントの「思考できるが不可知なものとしての主体」という考え方を退け、その上で新しく「思考できないが可知的なものとしての主体」という独創的な考え方を提示する。本研究はこの対比の内実を明らかにすることによって、Bhattacharyya がカント哲学をどのように解釈し、どのような点を問題視したのかを考察した。日本に関しては、とりわけハイデガーが自身の「無」(das Nicht)の概念を練り上げていく上で京都学派の哲学から影響を受けていた可能性を探るために、ハイデガーが「無」について主題的にとりあげるにいたった「形而上学とは何か」、そして「言葉についての対話」を検討した。また、ハイデガーの無と西田幾多郎の絶対無を比較検討し、非古典論理の手法をもちいることを念頭におきつつ、それらの間の概念的な類似性、相違点を考察した。

**【活動の記録】**

「アジアにおけるカント哲学の受容」読書会として、Bhattacharyya の主著 *Subject as Freedom* を精読する読書会を週一度開催した。また「形而上学とは何か」の精読する読書会を月一度開催した。さらにハイデガーの無と西田幾多郎の絶対無を比較検討するミーティング（不定期、月 2 回程度）を行った。

### 【成果の概要】（800字程度）

本研究では第一に、Bhattacharyya の主著 *Subject as Freedom* の精読を通じて、彼がカント的な主体概念の何を問題としていたのか、そしてその問題を乗り越えるために彼が提出した、「知りうるけれど考ええないものとしての主体」とはどのようなものであったかを明らかにした。Bhattacharyya によれば、カントの言う超越論的自己は、理性の領域を越えた存在者であり、こうした主体概念は、真の意味での自己知を不可能なものにしてしまう。これに対して Bhattacharyya は、自己知が可能であるためには、知られるものを対象化することのない知のあり方が必要であると論じる。彼によれば、思考は本質的に考えられるもの、意味されるものの対象化を含むため、そうした知は思考ではない。対象化を伴わない知のあり方は、知るという機能・はたらきを、機能・はたらきそのものとして把握するというところに存するとされる。

本研究では次いで、ハイデガーの無と西田幾多郎の絶対無の比較を行った。とりわけ以下の点を明らかにした。まず、彼らが、対象ないしあるもの (beings) であるとは、私たちの志向的状态、意識がそれについてのものでありうるということだと考えていたということ、彼らは無／絶対無をすべての対象がそこに基礎づけられるような基礎的な存在者であるとしていたことを指摘した。その上で、無／絶対無が、対象であると同時に対象ではないという矛盾する性質を本質的にもつと論じた。さらにこうした概念的な共通項を踏まえたうえで、これらの概念の整合性を検討するために、矛盾許容論理上のメレオロジーを用いた分析を試みた。とりわけ、通常のメレオロジーの体系には含まれない、すべての対象のメレオロジー的な和の complement、そして、対象とその complement の積(product)（これは本質的に矛盾した対象である）を導入した上で、西田の絶対無と相対無の区別について分析した。

### 【研究業績】

以下の研究発表を行った。（下線が発表者）

Casati, F. and Fujikawa, F. (2014). 'Heidegger's Nothingness and Nishida's Absolute Nothingness' *The 6<sup>th</sup> Next Generation Global Workshop*, Kyoto University. Jan 12, 2014.

Fujikawa, N. and Casati, F. (2014). 'Nothingness and Its Form: Form a View Point of Paraconsistent Mereology', *2014 NCCU-KU-YaleNUS Workshop in Asian Philosophy*, National Chengchi University, March 7, 2014.

Iizuka, H. 'K. C. Bhattacharyya's Subject as Knowable without Thinking', *The 6<sup>th</sup> Next Generation Global Workshop*, Kyoto University. Jan 12, 2014.

Iizuka, H. 'K. C. Bhattacharyya's Concept of the Subject as Knowable but Unthinkable' *2014 NCCU-KU-YaleNUS Workshop in Asian Philosophy*, National Chengchi University, March 7, 2014.

### 【通信欄】